

# シュッコンカスミソウ切り花の切り前と前処理時のシヨ糖濃度が花持ちに及ぼす影響

## 1. はじめに

シュッコンカスミソウは、高温期には開花の進行が早く、萎凋花が早くから発生するため、低温期に比べて早い開花ステージで収穫されます。しかし、切り前を早めた場合、糖の不足による花持ちの低下が考えられます。ここでは、切り前と前処理時のシヨ糖濃度の違いが花持ちに及ぼす影響を検討しました。

## 2. 試験方法

供試材料には、品種「雪ん子」を2006年5月26日に、最上位枝の小花A（1段開花）およびB（2段開花）が開花した段階（図1）で採花し、切り花長を60cmに調整して用いました。この切り花をシヨ糖濃度0、3、6%の前処理液（いずれもSTS0.2mMを添加）に生け、室温15℃、暗黒下で19時間保持しました。その後、輸送を想定し、切り花を蒸留水の入れた容器に生け、12℃暗黒条件で48時間保持しました。調査は1区6本とし、花持ち調査の条件は、生け水を蒸留水、12時間日長、光強度 $10 \mu \text{mol} \cdot \text{m}^{-2} \cdot \text{s}^{-1}$ 、室温 $23 \pm 1^\circ\text{C}$ 、相対湿度50~80%としました。

## 3. 試験結果

前処理液の吸収量は、いずれの切り前においても、シヨ糖6%区で少なくなりました。しかし、前処理後の切り花重増加量には、前

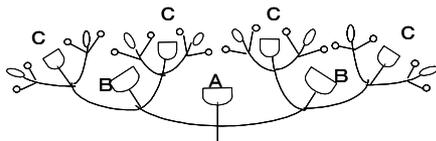


図1 シュッコンカスミソウ  
切り花の開花程度

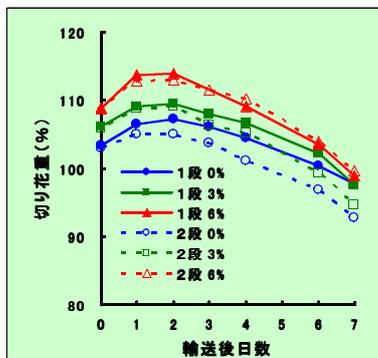


図2 輸送後の切り花重の推移  
注) 切り花重は、輸送シミュレーション開始前を100とした値

処理液の吸収量と一定の傾向は認められませんでした（表1）。

輸送後の切り花重は、切り前にかかわらず、シヨ糖濃度が高い区ほど高く推移しました。また、シヨ糖濃度が低いほど、1段開花区に比べて2段開花区で、輸送後日数が経過するにつれ切り花重の低下が大きくなりました（図2）。輸送後の開花率は、前処理時のシヨ糖濃度が高い区ほど最大値が高くなりました。同様に、1段開花区は、2段開花区に比べて低く、シヨ糖6%区においても最大でも31%と2段開花区のシヨ糖0%区よりも、低くなりました（図3）。萎凋花は、2段開花区が1段開花区より、輸送後早くから発生が認められました（データ省略）。

## 4. まとめ

以上のことから、1段開花区では、STSと糖処理により、切り花重の減少と萎凋花の発生を抑制しました。しかし、前処理時のシヨ糖を6%と高めても、輸送後も2段開花区ほど開花が進みませんでした。このことから、切り前を早めた場合、前処理だけの糖処理では、糖が不足するため、湿式輸送において、バケツ溶液へ糖を添加し、輸送中も継続して、糖を与えることが必要と考えられました。  
(園芸部 宮前治加)

表1 切り前および前処理液のシヨ糖濃度が前処理液の吸水および前処理後の切り花重に及ぼす影響

切り前	シヨ糖濃度 (%)	吸水量 (ml/100gFW)	切り花重増加量 <sup>2)</sup> (%)
1段開花	0	76.7 ± 2.4	11.3
	3	84.0 ± 4.5	11.0
	6	65.1 ± 1.5	10.1
2段開花	0	75.8 ± 1.8	10.6
	3	74.9 ± 4.6	11.1
	6	67.8 ± 2.1	10.8

注)<sup>2)</sup> 前処理開始前の切り花重に対する前処理後の切り花重の増加量

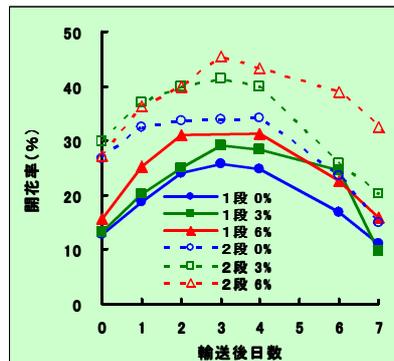


図3 輸送後の開花率の推移